

生きる、を支える科学技術

平成 30 年度成果発表会

理事長 林 春男

平成 31 年 2 月 22 日(金)に東京国際フォーラムで平成 30 年度成果発表会を開催いたしました。防災科研が独立行政法人に移行したのを機に始めた成果発表会も、今年度で 14 回目となりました。当日は、文部科学省研究開発局長佐伯浩治様よりご挨拶を賜り、内閣府や文部科学省をはじめとする関係省庁、民間企業、一般の方々など 500 名を超える方々にご来場いただきました。皆様のおかげをもちまして、盛況のうちに成果発表会を執り行うことができましたことを心よりお礼申し上げます。

今年度の成果発表会は「生きる、を支える科学技術」をテーマに行いました。まず第一部として「平成 30 年の災害が教えてくれた教訓」と題し、雪おろシグナル、草津白根山噴火、大阪府北部地震、平成 30 年 7 月豪雨、平成 30 年北海道胆振東部地震に対する防災科研の取り組みを紹介いたしました。第二部では研究成果を取りまとめた 80 枚のポスターを発表し、第三部では新たな試みとしてパネルディスカッションを行いました。「今さら聞けない SIP4D のすべて」と題し、災害時における関係機関間の情報共有を目的として開発された「SIP4D」について、さまざまな立場の関係者が活発な議論を交わしました。

また、この成果発表会では、防災科研が新たに策定した“防災科研のアイデンティティ”を発表しました。あらゆる種類の自然災害を対象として、予測・予防・対応・回復のすべての段階について、総合的な研究開発を進め、人々の命と暮らしを支えていこうという防災科研の決意が「生きる、を支える科学技術」に込められています。この大きな挑戦への決意を込めたアイデンティティを掲げ、防災科研は新たなステージへと進んでまいります。今後の展開にどうぞご期待ください。

